

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2019年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年3月12日(木)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年3月12日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【6号機使用済燃料プール冷却水ポンプ(A)吐出弁の操作機構部の不具合について】 6号機使用済燃料プール冷却水ポンプ(A)の起動のため、吐出弁を閉操作したが、途中で操作機構部が固くなり、全閉操作ができなかった。 今後、当該弁を点検し、原因調査を実施予定。 なお、使用済燃料プール冷却系については、冷却水ポンプ(B)を起動し、系統機能に影響がないことを確認済。</p>	GⅢ	3月6日
2	<p>【1～4号集中監視システムサーバ(1系)機器故障警報発生について】 1～4号集中監視システムサーバ(1系)機器故障警報が発生。基盤の異常を示すランプが点灯するも不具合箇所の詳細は調査中。 今後、調査結果をもとに対策を検討する。 現在、集中監視システムサーバ(2系)にて、継続監視中。</p>	GⅢ	3月10日
3	<p>【大型機器点検建屋近傍の資材倉庫内からの油の流出について】 大型機器点検建屋近傍に設置されている資材倉庫内から油が流出していることを確認。 原因は、倉庫天井部のシール材の割れ及び養生シートの剥がれにより、倉庫内に雨水が浸入し、倉庫内に保管されていたドラム缶、ワイヤーロープ等に付着していた油が、倉庫外に流出したものと推定。 応急処置として、倉庫上部へシート養生ならびに倉庫廻りへ土嚢の設置を実施した。 流失した油については、近傍にある排水溝を確認したところ、油膜は確認されなかったことから、系外への放出はないものとする。また、排水ピット上に浮遊していた油については、吸着シートにて回収済。</p>	GⅢ	3月10日